

Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2022/05/05

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	34.04	-0.31
JPY/THB	0.2638	-0.0003
USD/JPY	129.09	-1.05
EUR/THB	36.16	0.02
EUR/USD	1.0622	0.0101
USD/CNH	6.622	-0.026
SGD/THB	24.77	-0.03
AUD/THB	24.71	0.34
USD/INR	76.42	-0.24
USD Index	102.59	-0.88

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.413	0.000
10Y (THB)	2.973	0.000
5Y (USD)	2.913	-0.109
10Y (USD)	2.934	-0.037

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	1,868.8	-1.8
WTI (Oil)	107.81	5.4
Copper	9,473.5	63.5

Stock

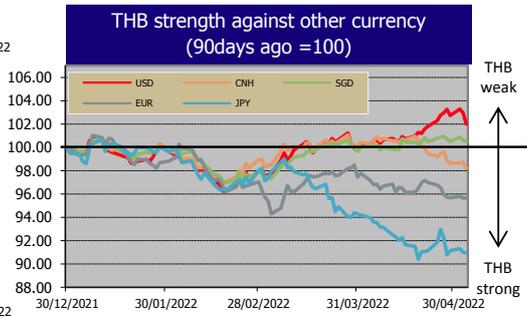
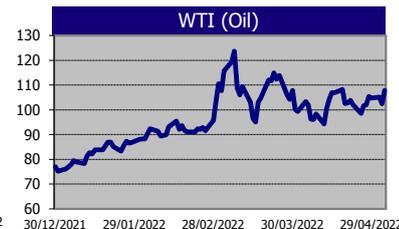
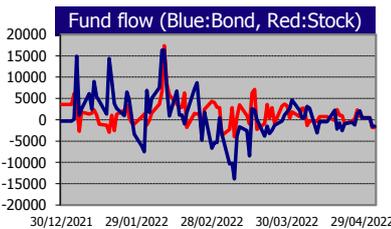
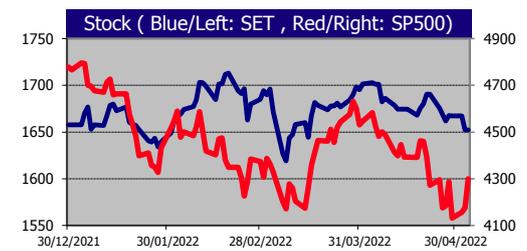
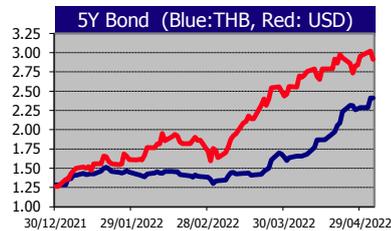
	Close	CHANGE
SET (TH)	1,652.29	0.00
NIKKEI (JP)	26,818.53	0.00
DOW (US)	34,061.06	932.27
S&P500 (US)	4,300.17	124.69
SHCOMP (CN)	3,047.06	0.00
DAX(GER)	13,970.82	-68.65

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	(1,834)	0.0
Bond net flow	(1,486)	0.0

*compared with previous day

(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

・ドルパーツは下落。3日のドルパーツは34.45近辺でオープン。日本がGWに突入し、タイでも祝日に挟まれたこの日は取引も少なく、横ばい推移。海外時間に入ると、ドルパーツは上値をトライする展開となり、直近高値をブレイクし、節目の34.50を上抜け34.55近辺まで上昇。しかし材料が見られない中で同水準はキープできず、達成感からその後は反落。結局34.35近辺でクローズした。翌4日はタイが祝日となる中で注目のFOMCを迎えた。FOMCでは事前予想通り0.50%の利上げが決定され、QTの実施も発表された。その後パウエルFRB議長の見解では0.75%の利上げには消極姿勢が示されたことで、利上げ折込みが後退しドルは大きく売られる展開。ドルパーツも34.00近辺まで急落し、結局34.05近辺でクローズした。

●ドル円その他

・ドル円は下落。3日のドル円は130.00円丁度近辺でオープン。翌日にFOMCを控え、かつ日本はGW期間中ということもあり、終始動意に欠ける展開を辿り、オープン同水準でクローズした。翌4日は注目のFOMCを前に横ばい推移を継続し、130.00円近辺でFOMCを迎えた。結果は事前予想通りとなったが、パウエルFRB議長が0.75%の利上げに対して消極姿勢を示したことで、ドルが大きく売られるなかドル円も急落。円ショートポジションもたまっていたことから、ストップを巻き込んで下落し、一時128.60円近辺まで下落。その後は米株市場が上昇する中で、129.50円近辺まで反発するが、戻り売りから下落を辿り、結局129.10近辺でクローズした。

Bangkok Dealer's Eye

本日のタイ時間早朝に注目のFOMC結果が発表され、米国では0.50%の利上げが決定し、次の2会合でも0.50%の利上げを実施することを発表。加えて、注目されたQTについても6月1日からの実施し、米国債とMBSの縮小規模を475億ドルから開始し、その後3ヶ月かけて950億ドルにしていくことが示された。その後、パウエルFRB議長の見解では0.75%の利上げに対して消極姿勢が示され、マーケットでは0.75%の利上げを見込む動きも見られていたことから、会見後には短中期金利を中心に米金利が低下し、ドルが大きく下落。ドル人元や、ドル円、ドルパーツなど、いずれの通貨ペアもドル売りが大きく進み、ドルパーツは34.05近辺まで下落した。今回のFOMCでは声明文では概ね事前予想通りの内容となったものの、パウエルFRB議長が0.75%の利上げを否定しハト派姿勢を見せたことで、市場はドル売りに反応する結果となりました。個人的には今回のFOMCを経て、2022年後半を迎えるに当たりQTベースを明かにし、次回2会合での利上げ幅についても具体的に示唆したことで、米国の金融政策の不透明感がやや払拭され、あく抜けを感じる内容になった印象です。ここ数ヶ月に渡り、ウクライナ情勢が不安定となる中で、FRBの金融政策の不透明感がマーケットを支配していたわけですが、今回FOMCを経てFRBの金融緩和縮小のシナリオが示されたことは、各国中銀も金融政策の方向性を示しやすくなったこともあり、パーツ相場についても、売り地合いが後退していく印象を感じます。足元のパーツ相場は中国のロックダウンの不透明感を意識した値動きとなっておりますが、米国のCPIで大きなサプライズがなければ、パーツは買い戻しが入る展開を意識しておきたいところです。(橋)

The report is prepared for the sole purpose of information only. It is not an invitation to trade. The writer's view expressed herein would not be substituted for the exercise of rational judgement by the recipients.